

十日町小唄

作詞 永井白七

作曲 中山晋平

- (一) 越後名物 かずかずあれど
明石ちぢみに 雪の肌
着たら放せぬ味のよさ
テモサツテモ ソジャナイカ
テモ ソジャナイカ
(以下繰返し)
- (二) 娘ざかりを なじよして暮らす
雪に埋れて 機仕事
花の咲く間じゃ 小半年
- (三) 窓にさらさら 粉雪の音
聞いて眠れぬ 夜もすがら
やるせないぞや 雪明かり
- (四) 人が見たらば 横丁へよけて
雪のトンネル 隠れ場所
恋の抜け道 まわり道
- (五) 雪が消えれば 越路の春は
梅も桜も 皆開く
わしが心の 花も咲く
- (六) 屋根の雪なら 下ろしもさりよが
恋の重荷を 何としよう
私じゃ苦勞が 増すばかり
- (七) 玉の汗にも ちぢまぬ明石
着れば透きます 雪の肌
本場越後の 十日町
- (八) 雪の夜がたり 囲炉裏に更けて
帰しともない 人がある
ままよ積もるなら 一二丈
- (九) 汽車を止めるよな 吹雪の中も
止めて止まらぬ 恋の道
思いつめれば 一筋に
- (十) 影は紫 夜明けの色の
晴れりや輝く 銀世界
雪に野山の厚化粧
テモサツテモ ソジャナイカ
テモ ソジャナイカ
(以下繰返し)
- (十一) 雪の半年 閉ざした窓を
開けりや浮き立つ 春の歌
小鳥ばかりに 任さりよか
- (十二) 逢いはせなんだか 十日町橋で
長さ六丁の 行き戻り
恋か涼みか 夜を更かす
- (十三) 霜が早いかな 越後の紅葉
色も濃くなる 初めから
思い染めたが 無理かいな
- (十四) 桐を育てりや 嫁入り箆笥
植えて楽しむ 花ざかり
娘ざかりも 直きに来る
- (十五) 山と山との 谷あいなれば
月は遅う出て 早う落ちる
踊り踊るなら 早うござれ
- (十六) おいでましたか 谷街道を
夏は若葉の 青あらし
秋は紅葉の 綾にしき
- (十七) 月の小窓に 瞼の母を
思い浮かべりや 雁の声
夜機織る 娘は袖しぐれ
- (十八) 秋の眺めは 八箇の紅葉
燃えて染めます 谷の水
様の心の 色見たや